

周辺住民から見た地下空間利用の評価に関する研究

一周辺環境や景観への評価を主として一

名古屋大学工学部社会環境工学科 学生 〇櫻井 昭夫
名古屋大学大学院工学研究科教授 フェロー 西 淳二
名古屋大学大学院工学研究科助手 正会員 田中 正

1. はじめに

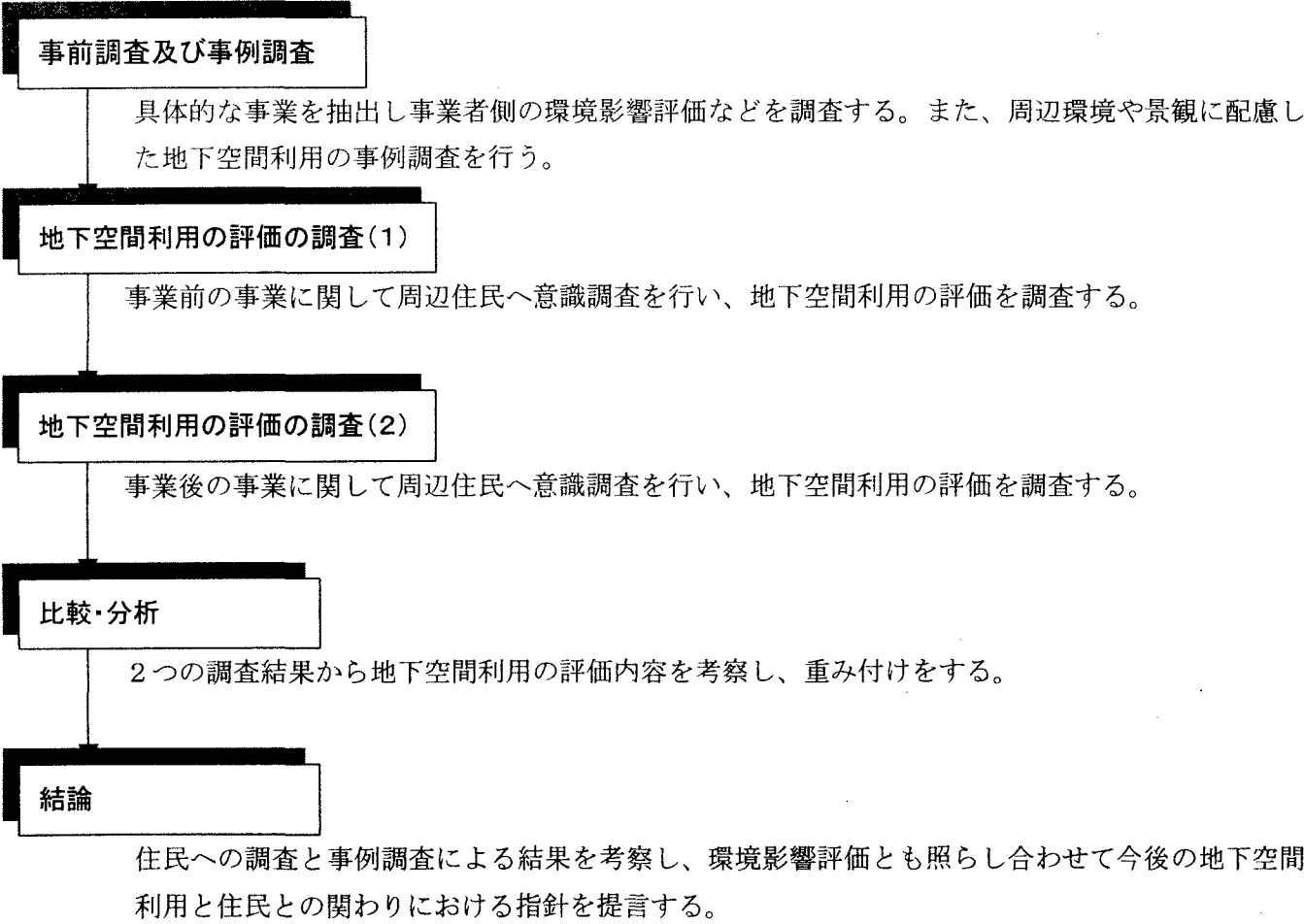
地域周辺の環境問題や景観問題への認識の深化により、公共事業や一般の大規模建築などによる影響は専門家だけでなく一般市民も関心を示すようになってきた。例えば、愛知万博計画では自然環境を保護する声が高まっており、自然をいかに残して、あるいは共存して開発するかが今後の公共事業のあり方となると思われる。

一方、現在地下空間が主に土地の利用の制限されている都市部において利用されてきているが、こうした時代の流れから今後は周辺環境や景観に配慮した地下空間利用が多くなることが予想される。

そこで本研究では具体的な事業をいくつか取り上げ、周辺住民に意識調査を行い、周辺環境や景観のための住民による地下空間利用の評価について考察することによって、今後の地下空間利用における指針を提言することを目的とする。

2. 研究の方針

研究の方法を以下のように示す。



3. 事例(環境・景観に配慮した地下空間利用の事例)

以下の事例は、周辺地域の環境にできるだけ手を触れないようにとの意図から地下に建設された施設である。

3.1 MIHO 美術館

総工費 250 億円をかけて滋賀県甲賀郡信楽町に建設された美術館で、この地区は以下のように指定されている。

- ・ 森林法保安林地区
- ・ 砂防法指定区域
- ・ 自然公園法県立公園第三種特別区域

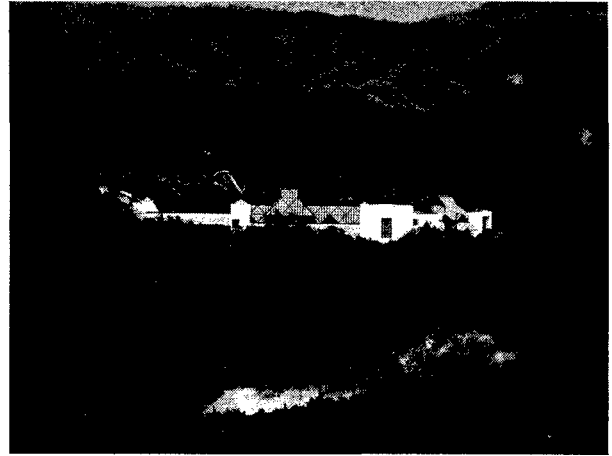


写真 1. MIHO 美術館

3.2 高山祭りミュージアム

高山市に建設された屋台の展示を中心としたミュージアムである。図 1 にあるように、建物の主体となる屋台の展示空間を全て山の中にいれることとしたため、周辺山地の掘削は極力抑えられ、環境保全にも役立つ、自然に優しい建物になった。また、掘削された岩石の大部分は、坑口前の土地造成に活用され、うまく平面地形の確保に繋げることができた。

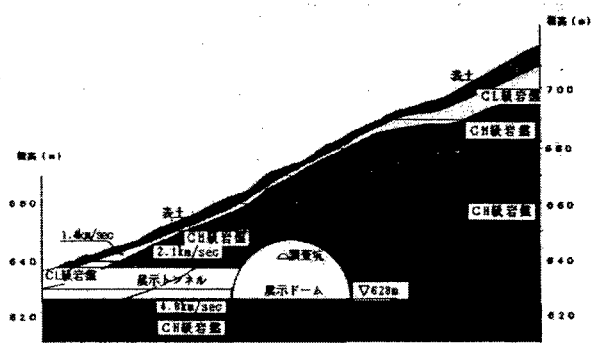


図 1. 高山祭りミュージアムの地質断面図

4. おわりに

環境への影響は様々な角度から評価されるべきだが、周辺住民の評価を地下空間評価の一連の手続きの中に組み込むことの最大の目的は、公共事業をめぐる開発と周辺住民との対立の解消に向けての建設的な議論を開始することにある。つまり、地下空間利用による価値を一般市民に聞くことによって評価され、先の事例のような地下空間利用が積極的に行われていけば、地下の特性を生かして周辺環境や景観の保全と開発の問題をある程度は解決できるのではないだろうか。その意味でも地下空間が果たす役割は今後ますます大きくなる。

なお住民への意識調査の結果及びそれに基づく考察は当日発表する。

参考文献

- 1) 松尾稔・林良嗣／都市の地下空間 ー開発・利用の技術と制度ー、鹿島出版会、1998
- 2) 千葉俊彦・森隆広他／地下空間の利用効果とその評価について、地下空間シンポジウム論文・報告集、P243-250、1999